

補足説明7:倉庫周りの遮蔽計算モデルと線量率について

2019年11月27日
 面談用資料
 HR19-278

倉庫周りの遮蔽計算では、ドラム缶収納エリア全体(通路部分含む)を線源エリアとし、エリア内に線源が均一に分布するとして計算を実施している。ドラム缶が配置される領域毎に線源を分割して評価した場合との線量率比較結果を以下に示す。

【評価条件】

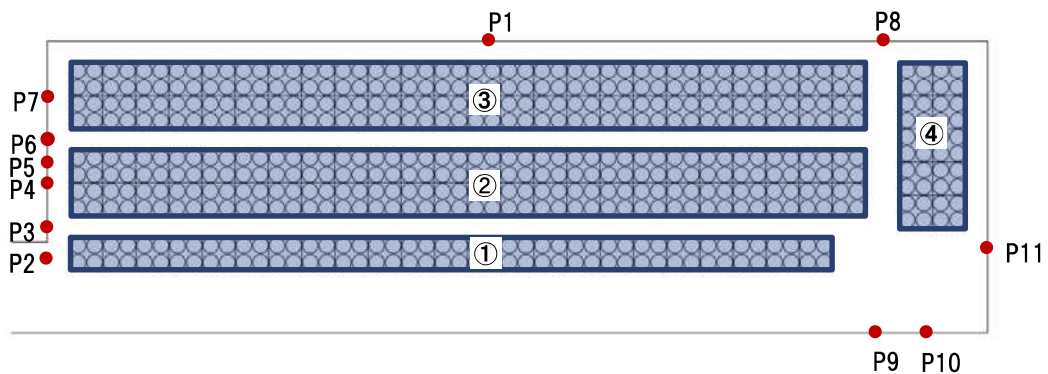
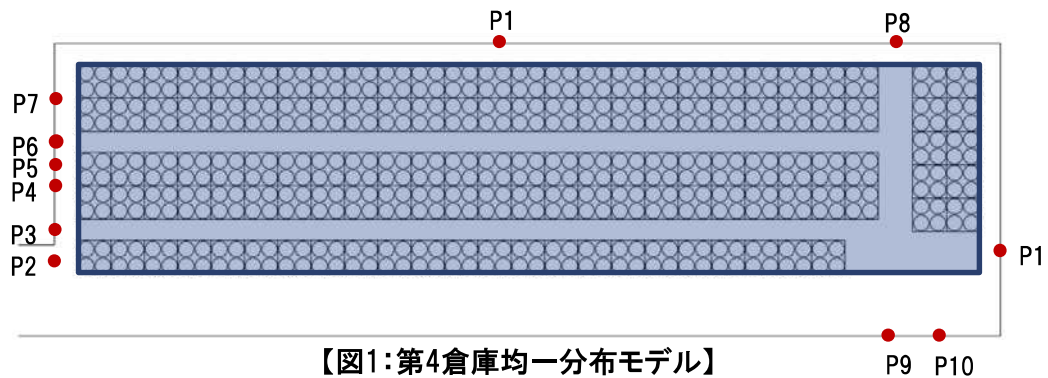
線源条件、線源形状は、添付書類2に記載している通りとする。

【評価モデル】

・第4倉庫における現状のモデル(均一分布モデル)と領域毎に分割したモデル(領域分割モデル)を下図1、2に示す。

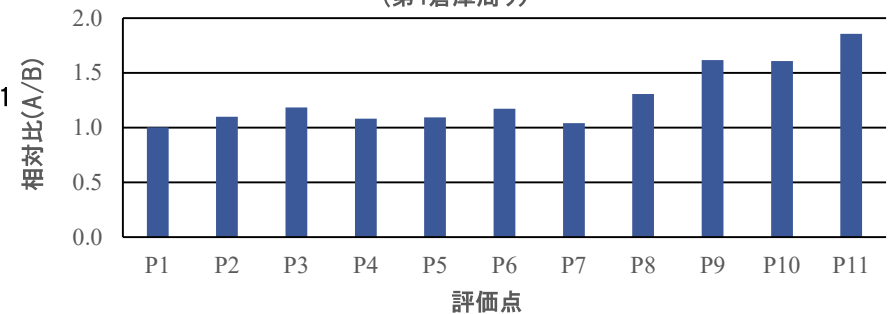
【評価点】

・各領域中心、領域間の中心及び均一分布モデルの軸/径方向の中心とし、図1、2中に示す建屋外壁位置のP1～P11とした。



【各評価点における線量率比較】

均一分布(A)と領域分割した場合(B)の評価点における線量率比較
 (第4倉庫周り)



均一分布モデルによる各評価点での線量率は、領域分割モデルによる計算結果より大きくなっている。(P1点は、モデルの差異による影響は見られない)

* 第5倉庫も同様の傾向であることは確認済